

## 沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会議事要旨（平成21年度 第1回）

1. 開催日時：平成21年6月18日（木）15：00～17：05

2. 場 所：沖縄総合事務局 2階 共用D・E会議室

3. 出席者：  
○委員 有住 康則 琉球大学工学部教授  
大城 常夫 琉球大学名誉教授  
富川 盛武 沖縄国際大学長

下記2名の委員は欠席。ただし、文書で意見をいただいた。

大城 勇夫 琉球銀行頭取  
立原 一憲 琉球大学理学部准教授

（敬称略：五十音順）

○沖縄総合事務局 次長、企画調整官 ほか

4. 事務局説明： 今回は、事業の重要性を鑑み、地元の各市町より市長、町長にご出席いただき、地元の意見をいただく。

- ・沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会規則、第3条6に基づき、委員長の選出を行った。  
委員長は、有住康則 琉球大学工学部教授が選出された。
- ・第1回事業評価監視委員会での審議対象事業は、再評価の道路事業3事業となっている。
- ・今回、欠席した委員の方より、事前に意見のあった意見書を配布。

### 5. 審議

#### ○予算執行見合わせの経緯説明

昨年度末の点検結果により費用便益比（B／C）が1を下回わった、3事業が予算執行の見合わせとなっている。

要因としては、将来交通量の減少。

#### ○与那原バイパス、南風原バイパス

- ・本事業に対して審議を行なった結果、「事業継続」で了承された。

#### 【審議内容】

#### 【与那原バイパス】

（市町意見）◇資料にあるように与那原バイパスはまちづくりのメインであるため、凍結

された状態だとまちづくり整備の根幹を揺るがしかねない。

◇東崎の工業団地計画の阻害になっている。土地の需要が動いてきている

◇現在でも交通渋滞が発生しており、ますます渋滞がひどくなる。

◇マリンタウン内に西原マリンパーク（きらきらビーチ）へ沢山の観光客が訪れている。今年もうたの日カーニバルが計画されており、ますます観光客等の増加が見込まれている。

◇現在、部分供用のため生活道路を車が通り抜けしていて大変危険である。

◇ペトロプラス社の南西石油がおよそ1000億の投資が今後見込まれている。

◇高架橋をコスト縮減で廃止してしまうのは、渋滞解消に対し非常に不安である。

コスト縮減ではなくもっと他の見直しが必要ではないか。解除に向けて、更なるご検討をお願いしたい。

(市町意見) ◇20数年前からマリンタウンプロジェクト構想があり、あと数年で完成を迎えており、構想発足当時から与那原バイパスは本プロジェクトに重要な位置づけとなっている。渋滞解消はもとより5,000坪の大型商業施設、海浜公園、自動車会社などすべての誘致はこの与那原バイパスが起点となっている。

◇また、与那原交差点は変則的な交差点となっており、渋滞と交通事故が慢性化している。与那原交差点で横断歩行中事故に遭うなど非常に危険な状態である。

◇さらには、南部医療センター・こども医療センターへのアクセスは与那原を含む周辺の東海岸付近の「命の道」であるため、3便益の面では图れないものがある。コスト縮減の観点については平面交差となった場合、渋滞が心配である。是非とも立体交差にしていただきたい。なんとか便益の部分を膨らませてコスト縮減せず費用対効果をクリアしていただきたい。

### 【南風原バイパス】

(市町意見) ◇住民の声を聞かずB／Cしかみていない状況に問題があると思う。元々、南風原バイパスに反対の声があった北丘ハイツについては、国道事務所も一緒にになって地域説明に取り組んで、大多数の賛同を得た。今回の予算凍結については、これまで努力し、築いてきた地元との信頼関係も損ないかねない。国交省はもっと地元に目を向けて欲しい。

◇また南風原町としては、平成19年度に第4次総合計画を策定しております。町内の道路網として、南風原バイパスが核となっており、その構想が崩れる。

◇この費用対効果は都会の中でしか道が造れない数式になっている。地元の生命が掛かっている。地域の現状をもっと見てもらいたい。

◇国のために、県民のために協力してきたのに今回の予算執行凍結については、行政に対する不満が噴出しており、我々市町村も不安を覚えている。

地元の生の声ですので、ご理解頂きご審議頂きたいと思います。

- (委員長) コスト縮減に対しての説明を事業者からお願いします。
- (事務局) ご意見ありました与那原バイパスの立体交差につきましては、今後の交通の状況を踏まえ、今後立体化の検討を行いたい。
- (委員) 国交省の費用対効果のみでは反映できないことについて、一つ疑問を抱いている。なぜ医療機関アクセスなど便益計算に組み込めないのか?また、雇用創出やまちの発展の機会損失など客観的に説明できるように数字を組み込めないか疑問である。
- (事務局) 国交省の便益のとらえ方が禁欲的であることについて、個人的な認識をお話させてもらう。その理由として、一連の道路特定財源問題で先の国会でありました無駄な道路という視点で指摘されたことと、イギリスなどの便益算定を参考にしたこと、委員の指摘は分かるが、なかなか数値化は困難であることを。このように考えます。
- (委員) 立体交差の取りやめについて、問題は無いのか。
- (事務局) 予測交通量の見直しで前回32,300台/日→今回25,400台/日になっている。  
当面は、平面交差で整備を行い、将来与那原バイパスの延伸や周辺道路の整備等により交通状況を踏まえ、別の事業として検討したいと思います。
- (市長意見) 説明内容は了解しましたが、事業完了後にすぐ検討してもらえるのか?
- (事務局) 必要な時期に必要な事業を実施したいと思います。
- (委員長) 事業継続でよろしいでしょうか? (異論なし)  
事業継続と致します。
- (※事業継続として審議終了)

## ○中山改良

- ・本事業に対して審議を行なった結果、「事業継続」で了承された。

### 【審議内容】

- (市町意見) ◇中山改良はそもそもB/Cが適用されないと思っていました。なぜなら、未整備区間で、道路構造令にそぐわないカーブが多く数年前子供が轢かれてしまい死亡する事故など大変危険な箇所であります。  
◇中山改良はそういった危険な地域であるところに費用対効果を適用することは疑問を感じ得ずにはいられません。  
◇また南城市内には、たくさんの観光資源があるが、道路が未整備のため、観光の効果が得られていない。中山改良の整備により観光による経済効果

が想定される。観光客の意見として景観が優れているが交通の便が悪いとよく聞きます。本島南部の東海岸は国道・県道南風原知念線しか幹線となる道路がありませんが、県道は、現在災害に弱く通行止めを毎年のように行っているため時間の計算ができなくて困る。中山改良を継続して進めて頂きたい。あと現道で幅員の狭い箇所があるため、法定速度内でもすれ違いで接触事故が起きているため大変危険であるとバス会社からも聞いている。今回の凍結をうけバス会社も写真撮影等についても積極的に協力してきた。

- (委員長) 中山改良など事業進捗が著しいのに事業凍結してしまっているのは如何と思うが事業者の考えはどうか?
- (事務局) 委員の皆様には大変厳しいご判断を仰がなければならないと思っております今までの説明、市町からのご意見を踏まえてご判断をお願いいたします。
- (委員) P18の休日交通は50年とあるのはどうしてか。
- (事務局) 50年は全国一律の基準となっております。
- (委員) 現場を見てきたが、はっきり言って曲線が厳しく欠陥道路である。費用対効果で難しければ残事業B/Cで判断しても良いと考える。  
厳しい財源ではあることは承知しているが、全国一律の基準で凍結してしまうことはどうかと思います。
- (委員長) 総合的に判断して事業継続で良いでしょうか? (了解)  
事業継続とします。審議ありがとうございました。
- (※事業継続として審議終了)